

平成 27 年度政策討論会第二分科会要点記録

- ・日時 平成 27 年 11 月 24 日
- ・場所 第 1 委員会室
- ・会議時間 13 : 00～13 : 35
- ・出席者 座長 岡林 憲二
副座長 金子 拓矢
井上 博
今口 千代子
岩崎 雅秋
烏野 隆生
米田 貴志 (五十音順)

・今回の狙い 本分科会のテーマは、「岸和田の観光におけるインバウンド観光客の取り込みについて」である。今回は「岸和田市のあるべき姿」について、課題解決も念頭に置き考察する事が狙いである。

発言要旨（順序不同）

- ① 観光問題のあり方について検討してきましたが、究極のところ結論としては、市に観光に来る方々が本市にお金を落としてくれることではないかと考えます。

城や祭りという文化遺産を活用することも一つとは思いますが、恒久的に人を呼ぶようにするには、本市の体育施設を充実することで全国又は近畿大会レベルの競技大会を誘致することで人を集めてはいかがでしょう。

全国大会だとメジャーなスポーツだと千人程度の選手役員が来ます。本市には宿泊施設がありませんが、地域の方々の持つアパートなどの空部屋を民泊として活用することで、食事は給食屋やコンビニを利用してもらえれば対応できると考えます。

インバウンドで風習の異なる外国人の方々を相手にするより、日本人を相手にする方がトラブルも少ないはずです。

民泊や給食屋を利用してもらえれば、直接市民の方々に還元できるので一挙両得だと考えます。

- ② 他市のインバウンドの取り組みを学習して、それなりのスケールをもった観光資源があつて、専課が設置され、進んでいるように思います。

岸和田市においては、お城、あらたに、久米田池など、アピールできるものは、もっています。それらを、発信していく努力はいつそうすべきで、旅行社、観光協会、市民の方々などに発信していただくよう市としての努力が必要と思います。

インバウンドを成功させるためにも、岸和田市民が、岸和田の観光スポットを知り、市民の力で、にぎわいを作りだしていくことが大事です。

- ③ 岸和田におけるインバウンドの課題としては、それに取組むためのシステムの構築が急務である。そこに特化した部局を設置する事が大事。又、合わせて国際大会をはじめとして、国内外の全国規模の大会を呼び込む部局の設置も必要だ。

東京五輪が大きなチャンスである。五輪の事前キャンプを招致する事が、その後の本市がインバウンドに取組む部局の設置に大きくつながる。他市では先述したように民間から人材を招き、事前キャンプの招致に成功している。この岸和田において可能性として高いのはBMXである。現在はスポーツ振興課が中心となって取組んでいるが、一刻も早くノウハウのある民間から人材を招き部局を立ち上げ、まずはBMXの事前キャンプの招致を実現する事である。その流れがツーリズムをはじめとするインバウンドに特化した部局の設置につながり、本市のインバウンドに取組む課題の解決の大きな一歩となる。

- ④ 岸和田市についての課題解決について、インバウンドとしての岸和田における観光としての課題は、だんじり祭りが一番の観光ですが、年間を通して観光になりうるものは、岸和田城を中心とした城下町、だんじり会館で、外国人向けに、法被を着ての観光や彫物による実演見物など、祭りの雰囲気を楽しんでもらう、そのためにも、市内に住んでいる外国人の人に岸和田の観光を発信してもらえるような取り組みを実施する。又、岸和田市が市政 100 周年を迎えるまでに、日本では世界に誇れるビッグイベントが 2 回開催され、ラグビーワールドカップ、東京オリンピックである。岸和田市の立地も決して不利な立地とは言えません。空港に一番近いお城として、アクションプランを作成し、通訳、人材育成、W I F I の整備、観光サポートなど、インバウンド等に協力してくれる体制づくりが、成功の一つだと思います。

- ⑤ 何度も言いますが、まずは観光課が外国人受入観光目標（長期・中期・短期）各々を明確に出さないと進まないと思う。その上で本市にとっての重要施策なのかどうかに関わってくると思います。また、インバウンドについて観光振興協会・観光課・商工会議所・観光施設が連携しないと成立しないですね。本気でやるとしたら、無料公衆無線LAN環境の整備や多言語対応の改善・強化が必要になると思われるが、関空のようにLCCの拡大で多くの外国人来阪者が増大するのに合わせて空港の整備・人員確保をしている様に本市も対応しては、と考えます。委員会視察で玉野市に行った時、駅へ外国人の方がどんどん入ってくるを見ましたが、後で調べたら、そこから船で直島へ渡っていた様です。その島はアートの島ということで有名です。本市に於いても特化したものを打ち出すのもひとつの方法だと思います。

- ⑥ インバウンド観光に限れば、「これを契機に如何に民間に商機を作るのか」だと考えます。となると、根本になるのは宿泊施設の充実です。岸和田の場合、インパクトのある観光施設が無い中、これを起点にしてこそビジネスチャンスが生まれるのではないかと考えます。即効的に活かすには「民泊」であろうと、やはり結論づけました。

先月、マンションなど空き部屋を活用できる民泊条例案が大阪府で可決されました。

また、厚生労働省が今回の国家戦略特区以外でも来年四月にも民泊を解禁する方針だという報道も最近ありました。これまでの「ホテル」「旅館」「簡易宿所」「下宿」がこれまで旅館業法上の許可に関する四形態でしたが、新たに「民泊」が加える案が有力だということでした。

円安基調を背景とする訪日外国人の増加ですが、まさに国を挙げての取り組みです。特区内の民泊では、羽田空港に近い東京都大田区が既に検討を初め早くも来年一月から民泊をスタートする予定のようです。

先の大阪府条例が認めるところでは6泊7日以上 of 長期滞在が条件になりますが、来阪する外国人旅行者も目標であった380万人も達成できる見通しであり、80%を超える稼働率となり予約が取りづらい状況になっている府内宿泊施設を補いつつ、本市に賑わいをもたらす為にも当然、「民泊」を有効に活用すべきであると考えます。それには民業を圧迫するのではなく後押しをするような制度が必要です。

以前にも委員会でご提案いただきましたが、「岸和田らしさ」について一定の基準を作り、その基準に合致すればブランド認定や本市が管理運営するホームページで紹介する等、岸和田民泊バンクのような制度の創設は、取り組む価値があるのではないのでしょうか。

- ⑦ 訪日外国人旅行者の受入体制について、他市の先進的な事例について、調査し続けることが大事で、特に言葉の問題が最重要になっていると思う。外国人が安心して旅行すにためには、利用しやすい交通システムも必要になってくると思う。

岸和田市民が、岸和田の魅力について、もっと知って、岸和田を好きになり、岸和田のいいところをPRしていくことが必要で、今後は、PRを通じて、岸和田に不足している宿泊施設の誘致に、岸和田市を挙げて取り組む必要がある。

以上